三協アルミ

SGK-601

スライディングゲート
クルボーノ〈手動タイプ〉施工要領書

このたびは、三協アルミ商品をご採用いただきましてありがとうございます。
商品の施工には、この施工要領書をよくお読みになり、正しく美しく仕上げてください。
注意事項は、商品の性能・機能、強度や安全性を確保する上での重要な内容です。施工の際は必ずお守りください。
施工は専門業者様が行ってください。専門知識がない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。

注意　同梱されている取り扱い説明書、鍵、フック棒は、必ずお客様へお渡しください。

設置上の注意事項

□ゲート以外への転用や改造は行わないでください。
□給湯、暖房などの燃焼機器の排気ガスまたは車の排気ガスが直接商品に当たったり、滞留しないように設置してください。塗膜の剥がれなどの表面異常が発生するおそれがあります。

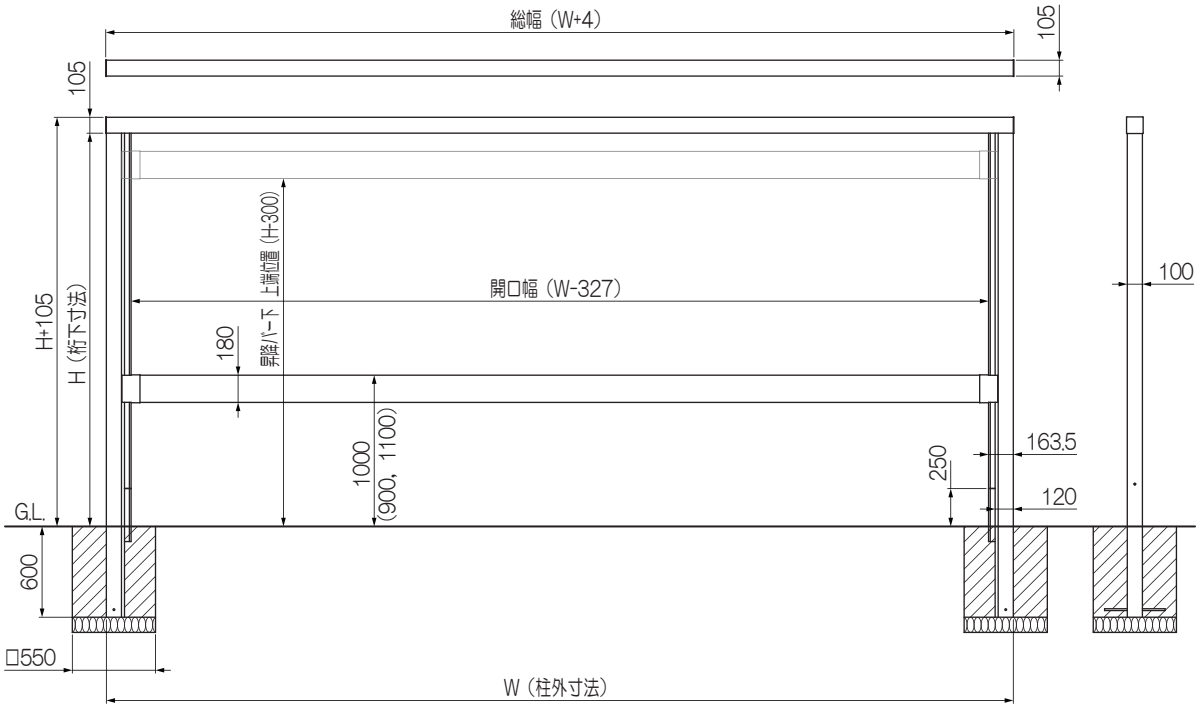
施工上の注意事項

□指定してあるボルトやねじをすべて確実に締めてください。
□ねじは止める面に対し傾かないよう垂直に取り付けてください。
□指定の部品やオプション品以外は使用しないでください。
□基礎は当社指示寸法以上にしてください。
□基礎はコンクリートを用いて施工してください。
□コンクリートやモルタルの養生期間は十分（4日～7日）にとり、養生期間中は重い物をおいたり振動させたりしないよう、お客様や他の工事業者様にお願いするか、その旨の注意表示をしてください。
□基礎用コンクリートやモルタルに海砂を使用しないでください。塩分による腐食の原因となります。また、凝結促進剤・減水促進剤・凍結防止剤などを使用しないでください。
□アルミ部材の表面に付着したコンクリートやモルタルなどの汚れは、速やかに取り除いてください。
□柱などを立ててからコンクリート詰めをしてください。コンクリートを入れた後に柱を立てると、柱内部に水がたまり凍結破壊の原因となります。また、柱内部の水が排出できない場合は、GLライン上部のアルミ部材にφ5 mm 程度の水抜き穴をあけてください。
□重い部材（昇降バー：約20 kg〔W6000〕）があります。二人以上で取り扱い、施工には十分ご注意ください。
□施工後、ボルトやねじ類にゆるみやガタつき、また使用上危険な箇所や汚れなどがないか点検してください。
□作業終了後、商品にキズ、ヘコミなどがないか確認してください。
□開閉作動や施解錠が正常に行えることを確認してください。
□取り扱い説明書に基づき、商品の使い方（施錠の操作方法など）や保守・点検方法およびメンテナンス方法を必ずお客様へ説明してください。

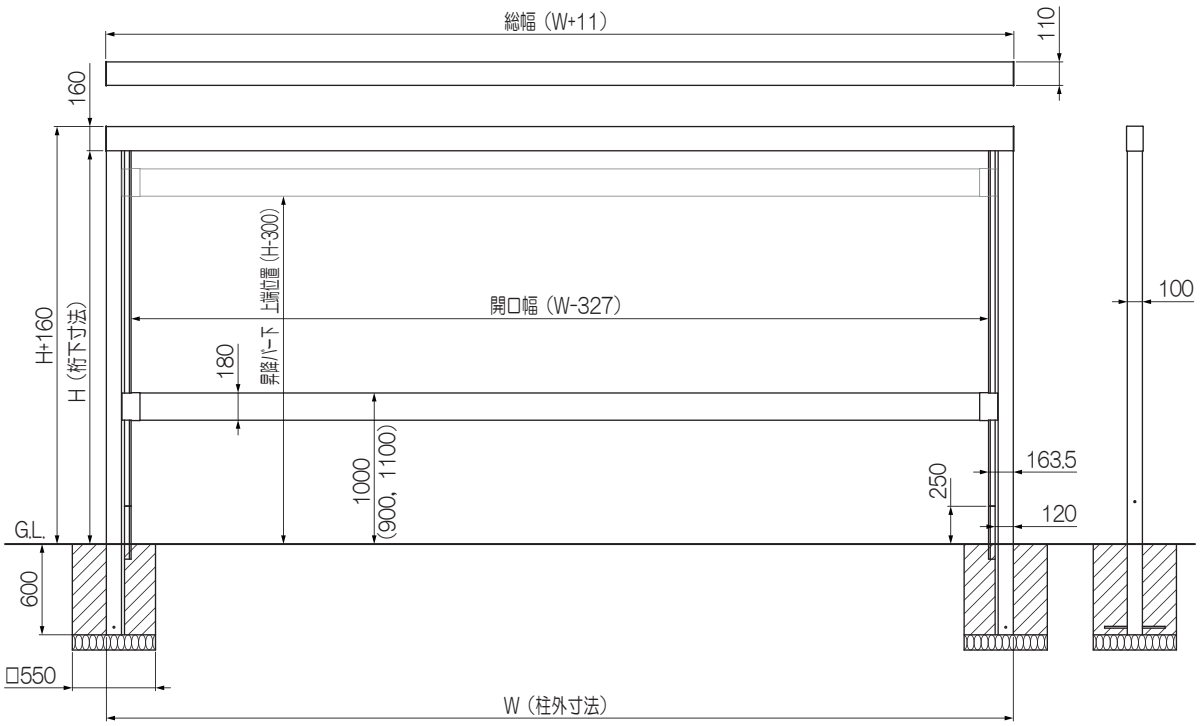
基本寸法

■完成図

桁105仕様（図は外観図）



桁160仕様（図は外観図）



■W寸法

呼称	W31	W54	W60
W寸法	3096	5396	5996

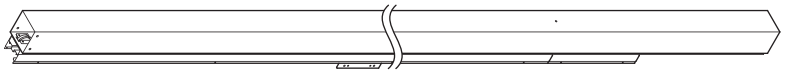
■H寸法

呼称	H23	H26
H寸法	2300	2600

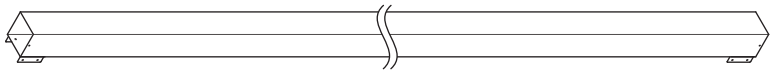
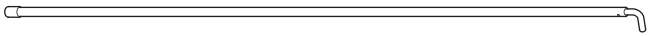
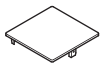
梱包内容

□開梱時に種類と数量を確認してください（部品袋の内容も確認してください）。
□取り付け前の商品に破損や異常がないか確認してください。
□開梱後、商品にキズをつけないように保管してください。
□万一商品に破損や異常がある場合、部品が不足している場合は、販売店または三協立山株式会社
　三協アルミ社までご連絡ください。

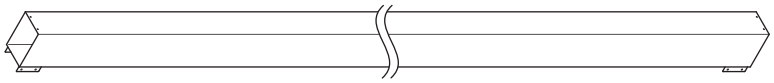
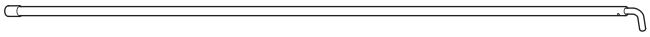
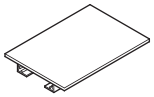
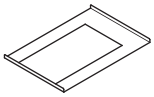
■柱セット（手動）：SGKH-23, 26

名称	略図	数量
柱		2
レールカバー		4
下レールカバー		4

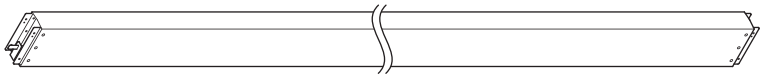
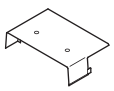
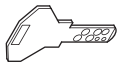
■桁セット（手動）桁105仕様：SGKK-31, 54, 60

名称		略図	数量
桁			1
部品袋	フック棒		1
	アンカー棒		2
	桁キャップ（桁105仕様）		2
	ロッドホルダー		2
	両面テープ		2
	施工要領書		1
	取り扱い説明書		1
小袋	六角ボルトWセムス　M6×16		8
	サラ小ねじ（D=6）　M4×10		12
	サラドリルねじ　φ4×16		4
	トラス小ねじ　M4×10		2
	トラス小ねじ　M5×10		2

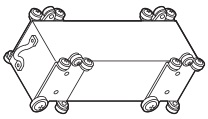
■桁セット（手動）桁160仕様：SGKK-31, 54, 60X

名称		略図	数量
桁			1
部品袋	フック棒		1
	アンカー棒		2
	桁キャップ（桁160仕様）		2
	桁キャップカバー（桁160仕様）		2
	ロッドホルダー		2
	両面テープ		2
	施工要領書		1
	取り扱い説明書		1
小袋	六角ボルトWセムス　M6×16		8
	サラ小ねじ（D=6）　M4×10		12
	サラドリルねじ　φ4×16		4
	タッピンねじ　2種 φ5×10		4
	トラス小ねじ　M5×10		2

■昇降バーセット（手動）：SGKB-1-31, 54, 60

名称	略図	数量
昇降バー		1
昇降バー端部カバー		4
キー（シリンダー錠のキー）		3
小袋	六角ボルトWセムス　M6×16	8
	サラ小ねじ（D=6）　M4×15	8

■バランサーセット（手動）：SGKT-1-31, SGKT-2-54, 60

名称	略図	数量
バランサー		2

■追加用フック棒：SGKF

名称	略図	数量
フック棒		1
ロッドホルダー		2
両面テープ		2
小袋	サラドリルねじ　φ4×16	4

施工手順

■施工は以下の手順で行ってください。

1 バランサーの組み付け

2 柱の建て込み

3 昇降バーの組み付け

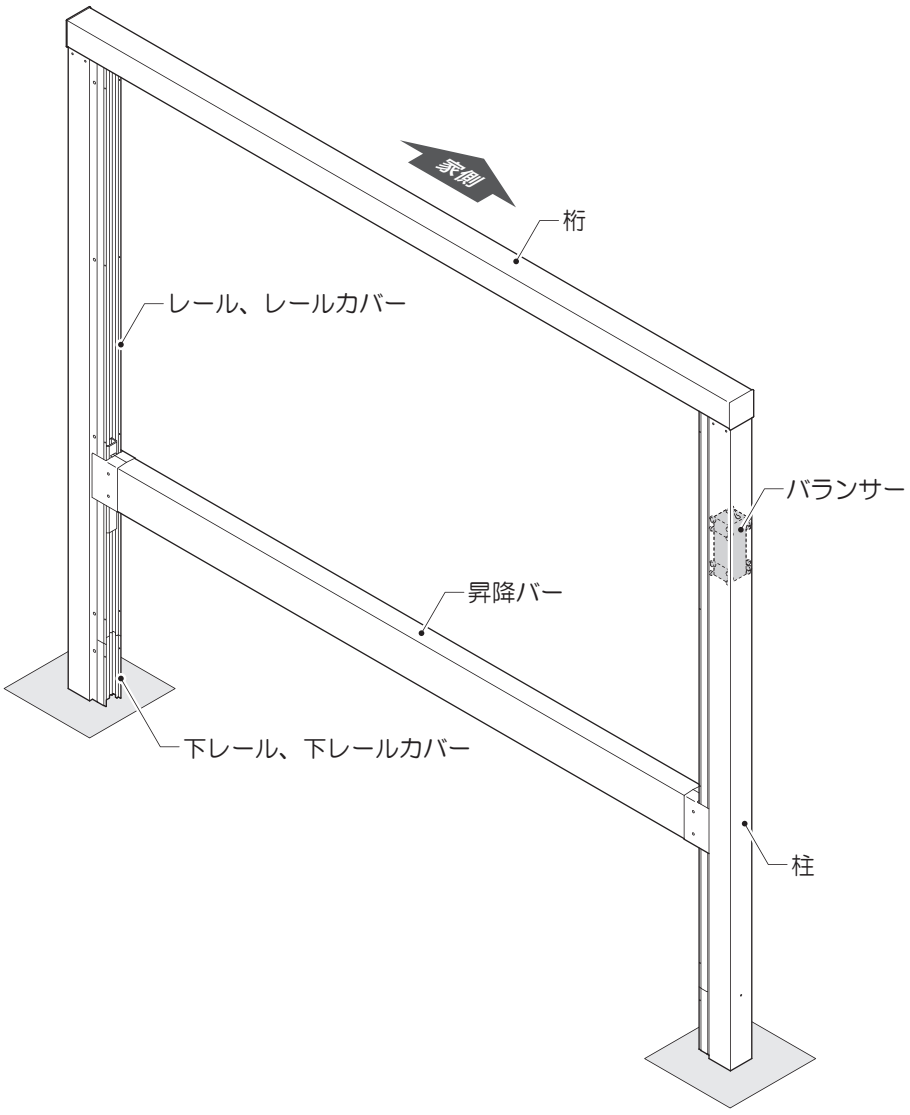
4 レール間ピッチの調整

5 レールカバー、昇降バー端部カバーの取り付け

6 フック棒の固定方法（保管）

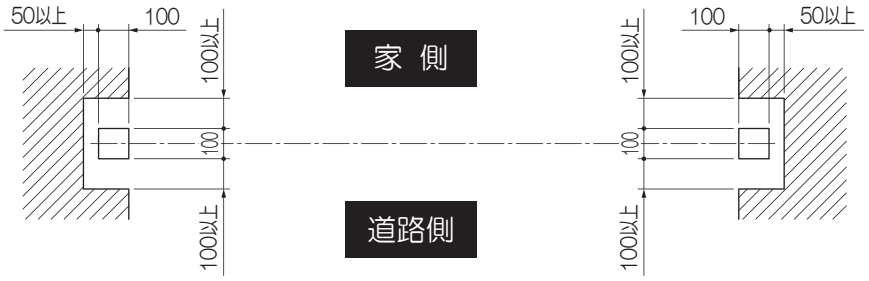
7 作業後の点検

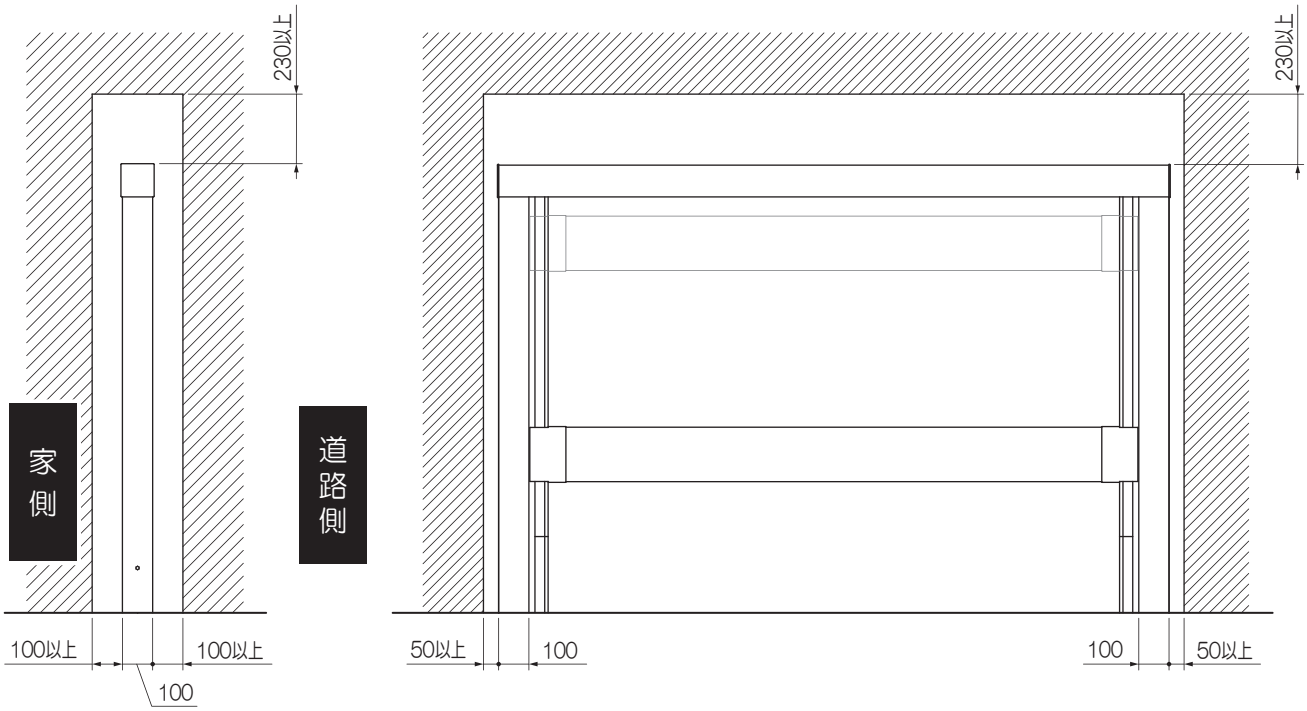
完 成 図



施工上の留意点

■柱・桁の周りに壁仕上げや他のエクステリア商品などがある場合は、必ず図の斜線の範囲内に施工してください。
柱・桁周りにスペースが確保されていないと、補修ができなくなりますので十分注意してください。



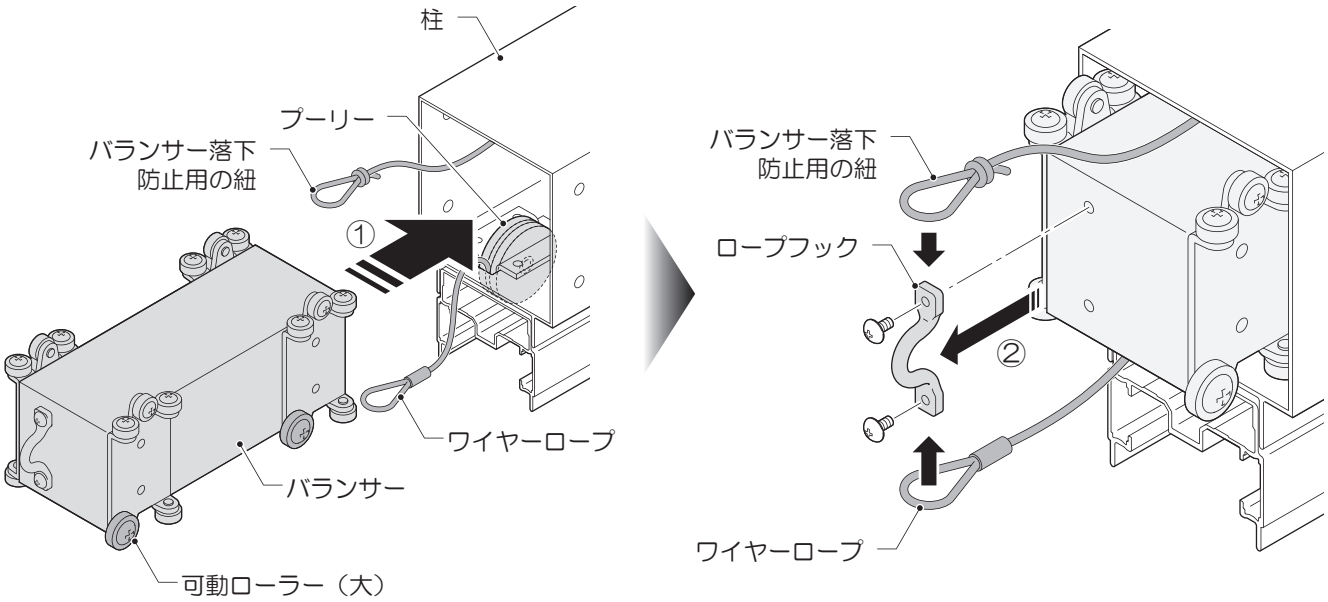


1 バランサーの組み付け

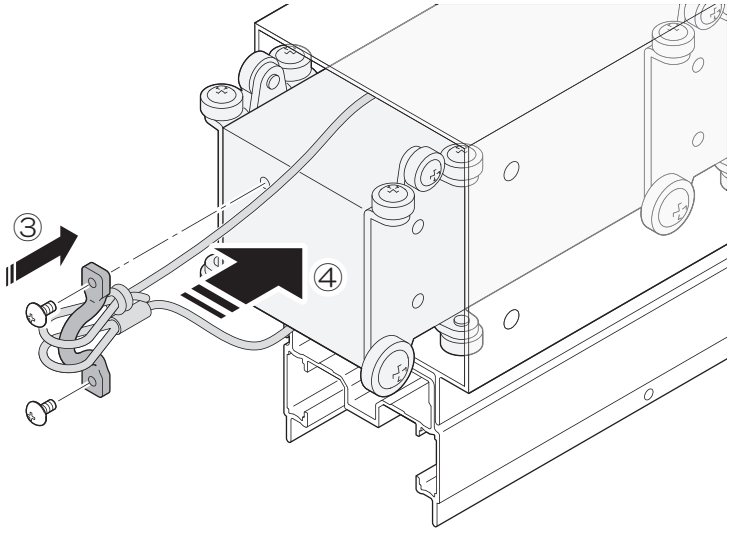
①柱にバランサーを入れてください。
②バランサーのロープフックをはずし、ワイヤーロープと落下防止用の紐をロープフックへ通してください。

※バランサーの向きに注意してください。
ロープフックとプーリーが揃い、可動ローラー（大）が必ずレール側になるように組み付けてください。

注意 反対に取り付けると、動作がスムーズでなくなるおそれがあります。



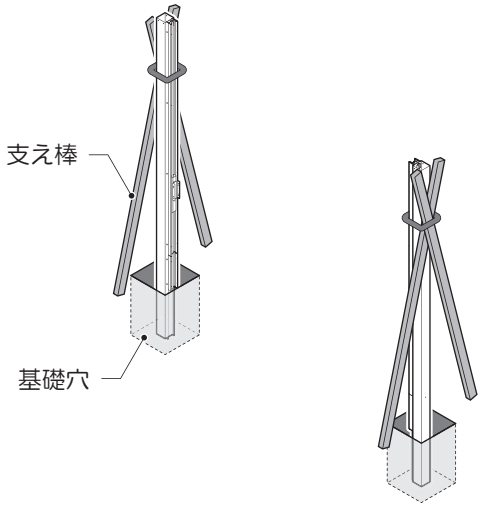
③ワイヤーロープと落下防止用の紐を通したロープフックを、バランサーへ取り付けてください。
④バランサーを柱内部へ押し込んでください。



2 柱の建て込み

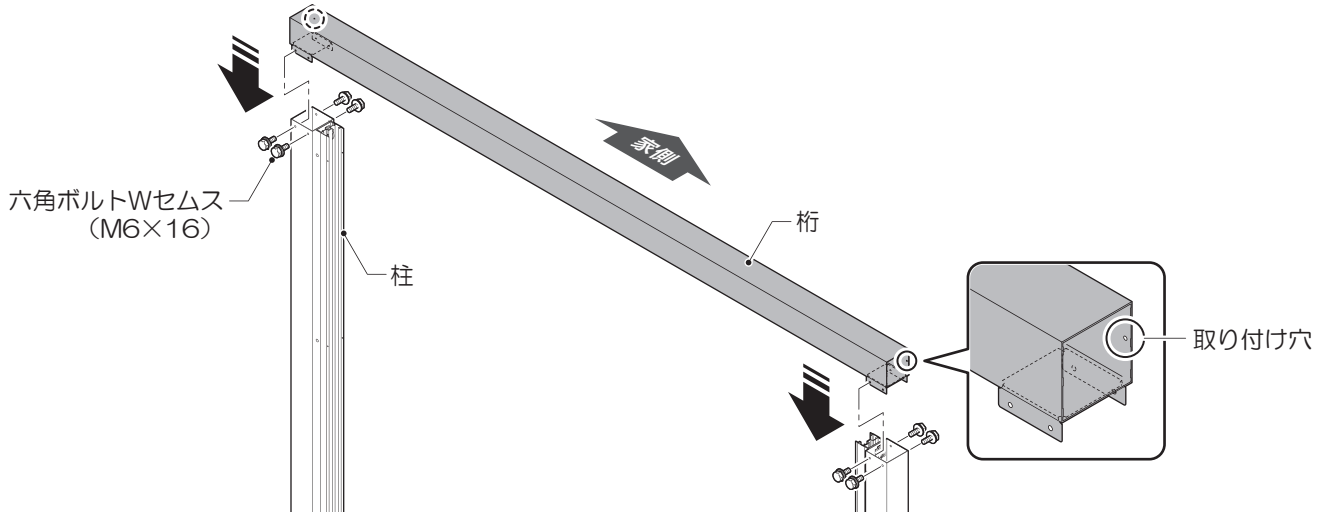
①基礎穴に柱を差し込み、倒れないように支え棒で固定し、自立させてください。

※柱を自立させた後、プーリーにワイヤーが通っていること、およびバランサー落下防止用の紐が絡まっていないことを確認してください。

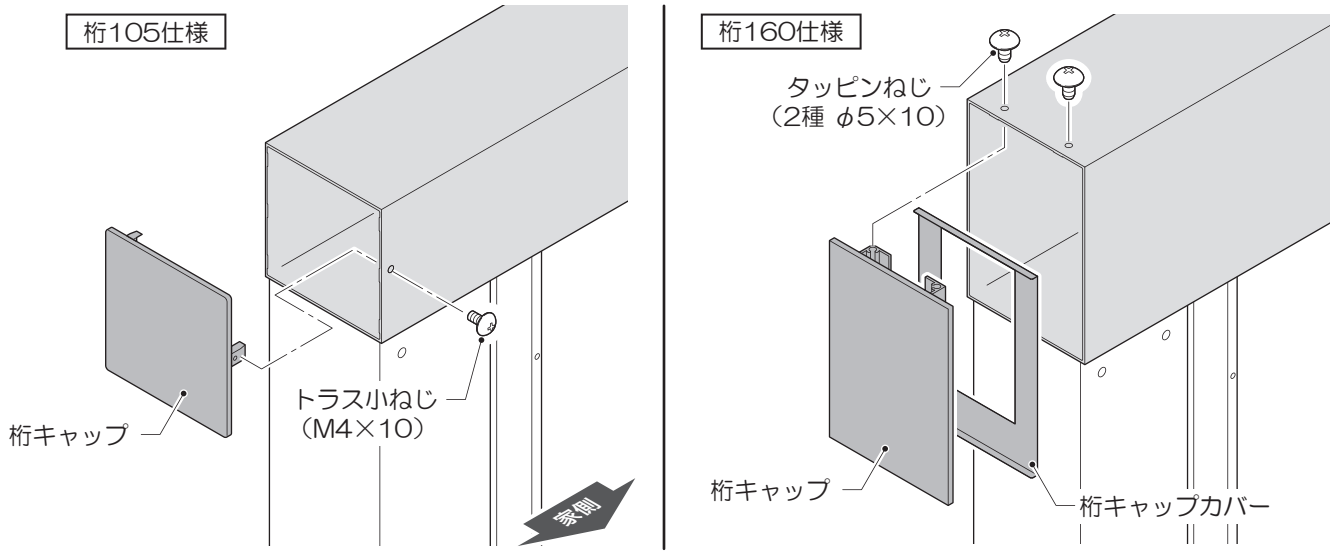


②柱に桁を差し込み、固定してください。

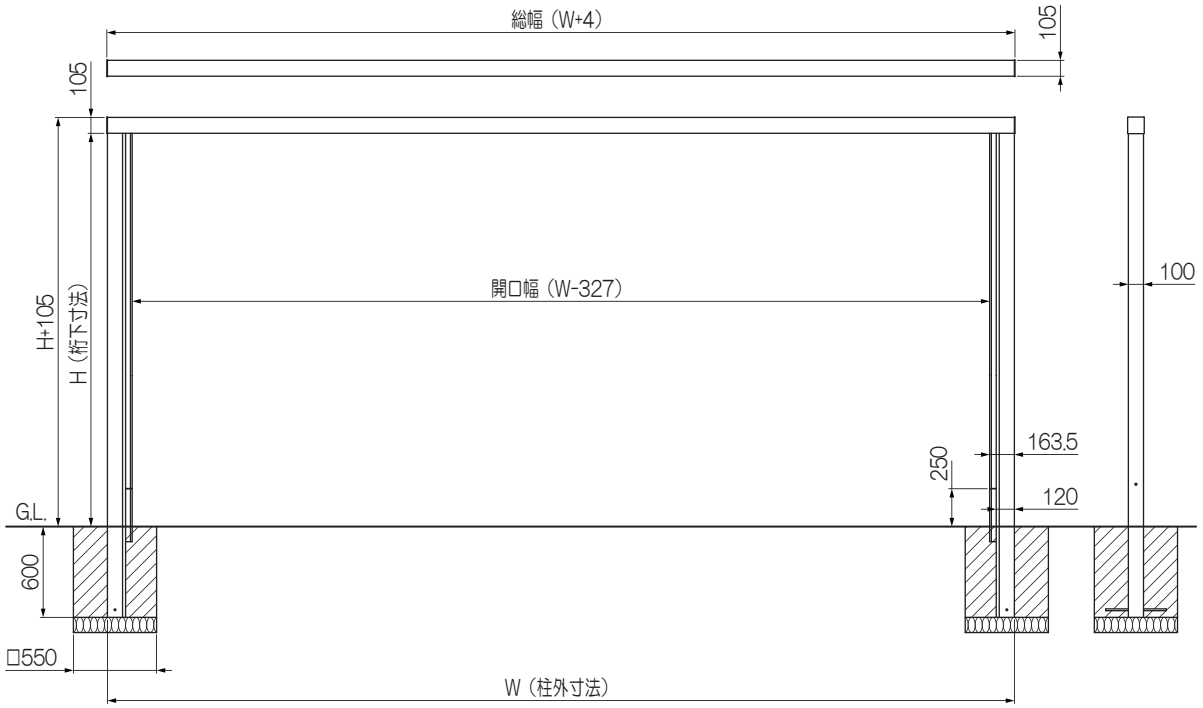
※桁105仕様の場合、桁キャップ取り付け穴が家側となります。
桁160仕様の場合は、家側・道路側の向きはありません。



③桁キャップを取り付けてください。

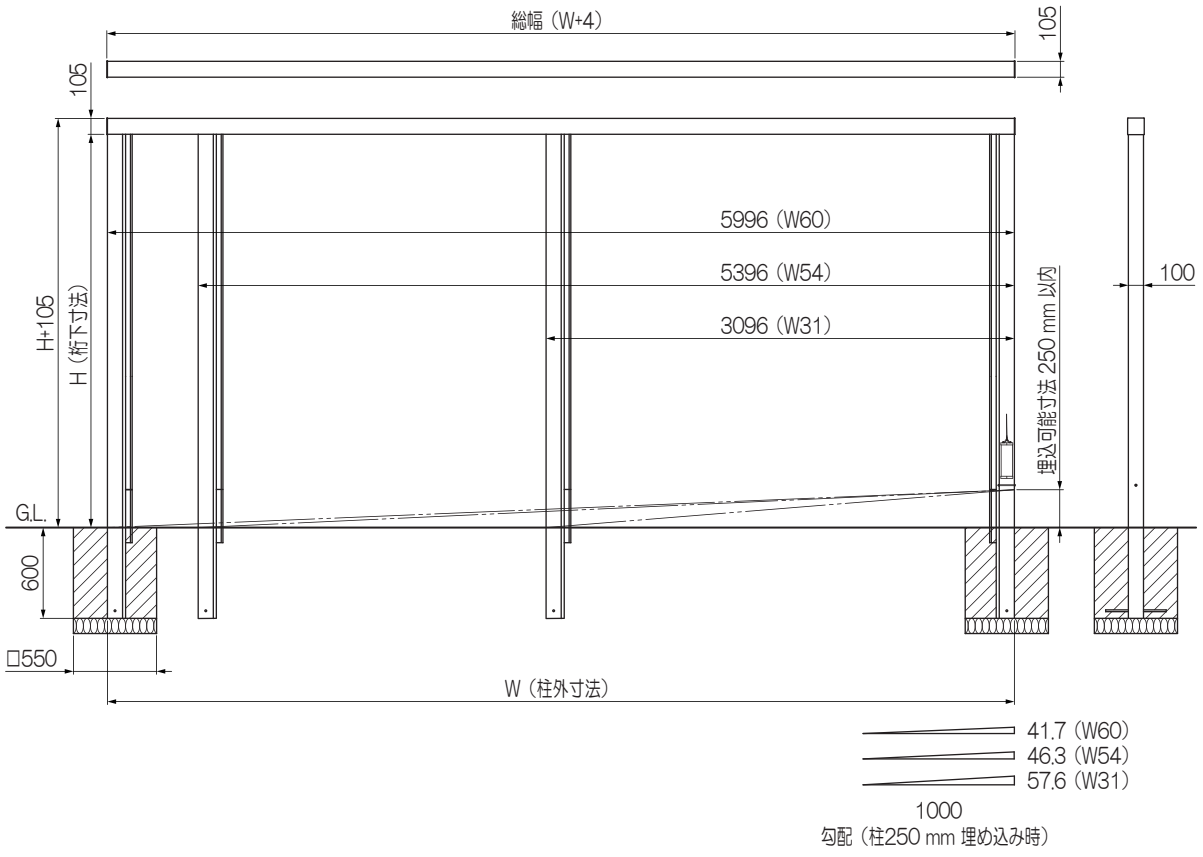


④ 柱位置 ・ 柱埋め込み深さ ・ 水平レベル ・ 垂直レベル を調整した上で、コンクリートを流し込んでください。



G.L.勾配対応

G.L.に勾配がついている場合、柱の埋め込み寸法は以下の寸法以内にしてください。

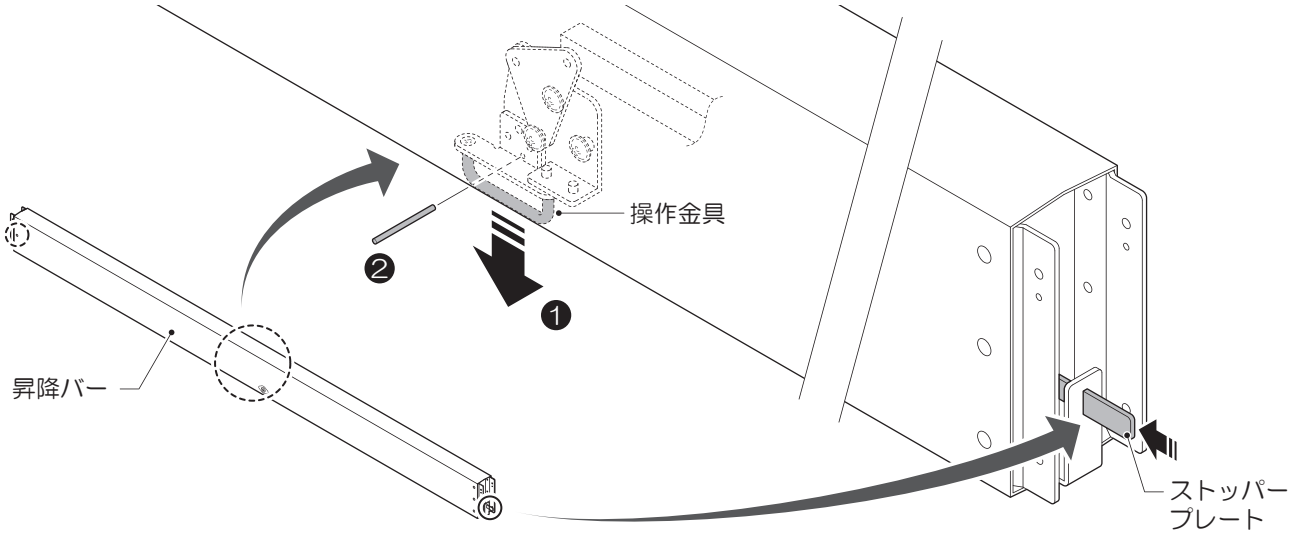


※柱を埋め込んだ後、GLライン上部のアルミ部材にφ5 mm 程度の水抜き穴をあけてください。

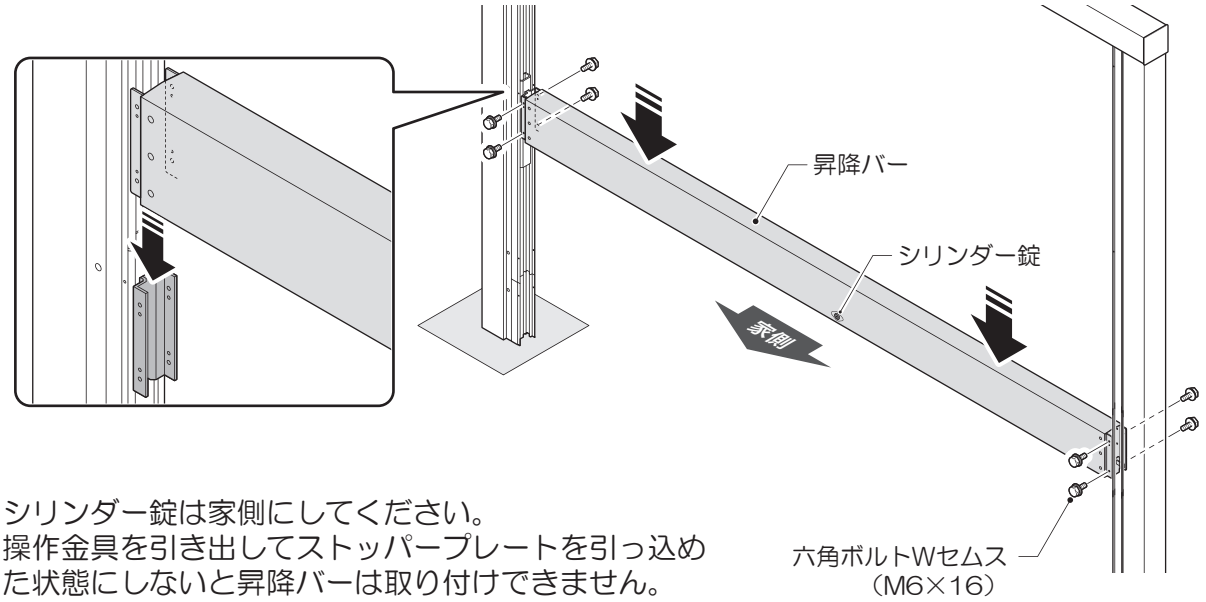
注意 柱の内部に水が溜まると動作不良の原因となります。

3 昇降バーの組み付け

①昇降バー中央部の操作金具を引き出し、操作金具中央部の孔にφ4 mm 程度のドリルなどを差し込みストッパープレートを引っ込めた状態で固定してください。

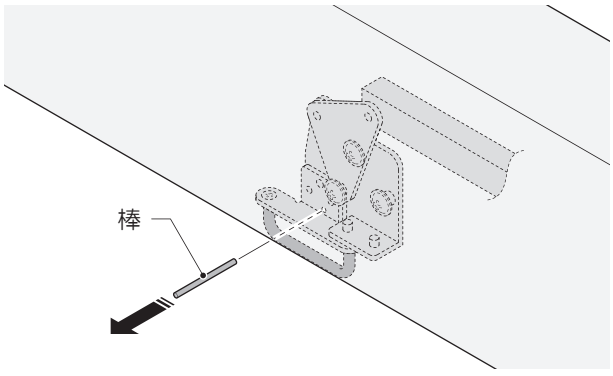


②昇降バーを柱間に入れ、上からスライド金具部へ差し込み固定してください。

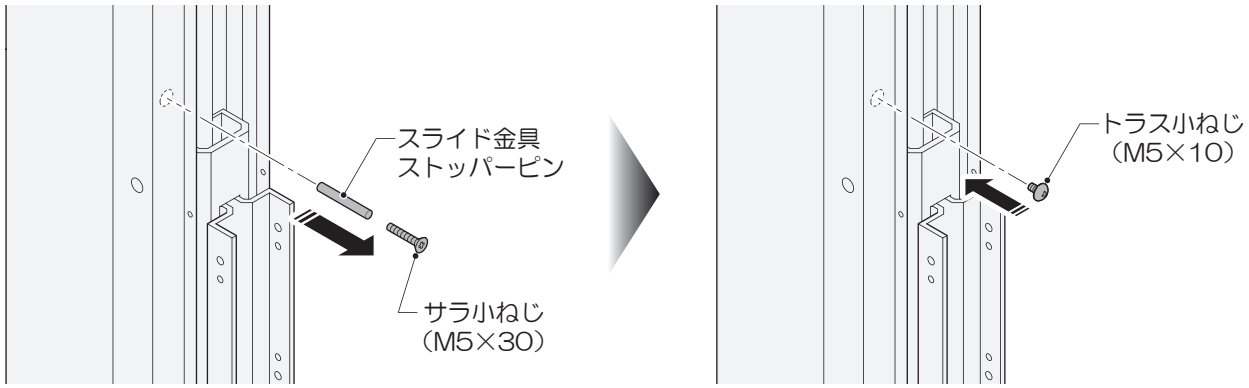


※シリンダー錠は家側にしてください。
※操作金具を引き出してストッパープレートを引っ込めた状態にしないと昇降バーは取り付けできません。

③ストッパー金具を固定している棒を抜いてください。

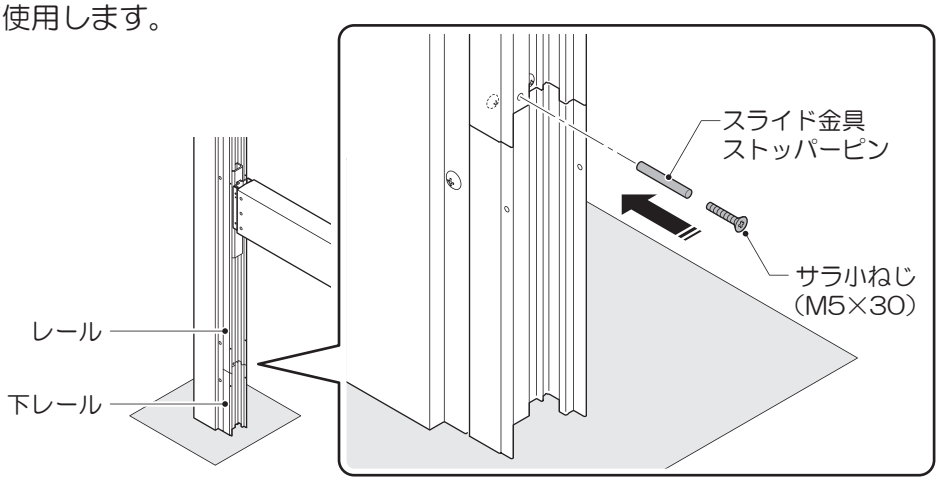


④スライド金具を固定しているストッパーピンをはずし、トラス小ねじを取り付けてください。



⑤はずしたスライド金具ストッパーピンをレール下部へ取り付けてください。

※補修などで使用します。

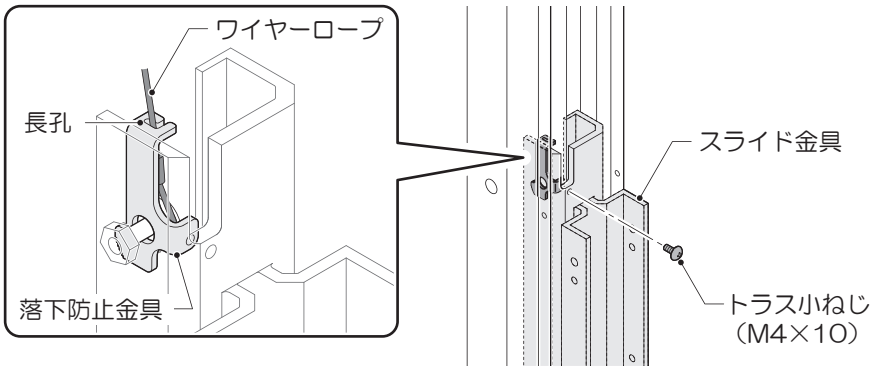


⑥スライド金具上部に取り付けてある落下防止金具の長孔にワイヤーロープが通っていることを確認してください。

※ワイヤーロープが落下防止金具の長孔に通っていない場合は、ワイヤーロープを通してください。

注意 ワイヤーロープが落下防止金具の長孔に通っていないと、昇降バーは動きません。

⑦スライド金具上部の落下防止金具を固定しているねじ（トラス小ねじM4×10）をはずしてください。



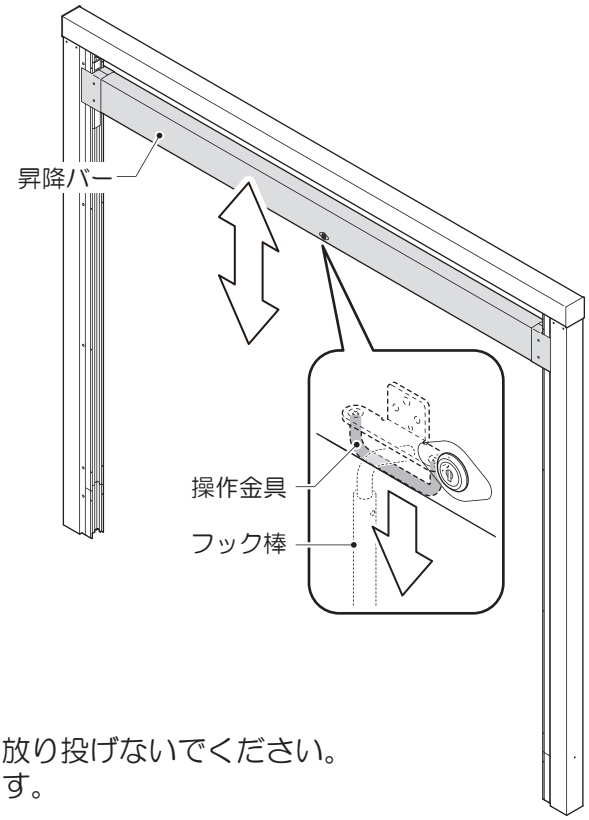
昇降バーの開閉方法

[昇降バーを上げるとき]

■昇降バー中央部の操作金具を下げロックを解除した状態で昇降バーを上へ持ち上げてください。
■昇降バーが上がり、手が届かなくなったところで昇降バー中央部をフック棒で押し上げてください。カチッと音がすれば上端でロックがかかった状態となります。

[昇降バーを下げるとき]

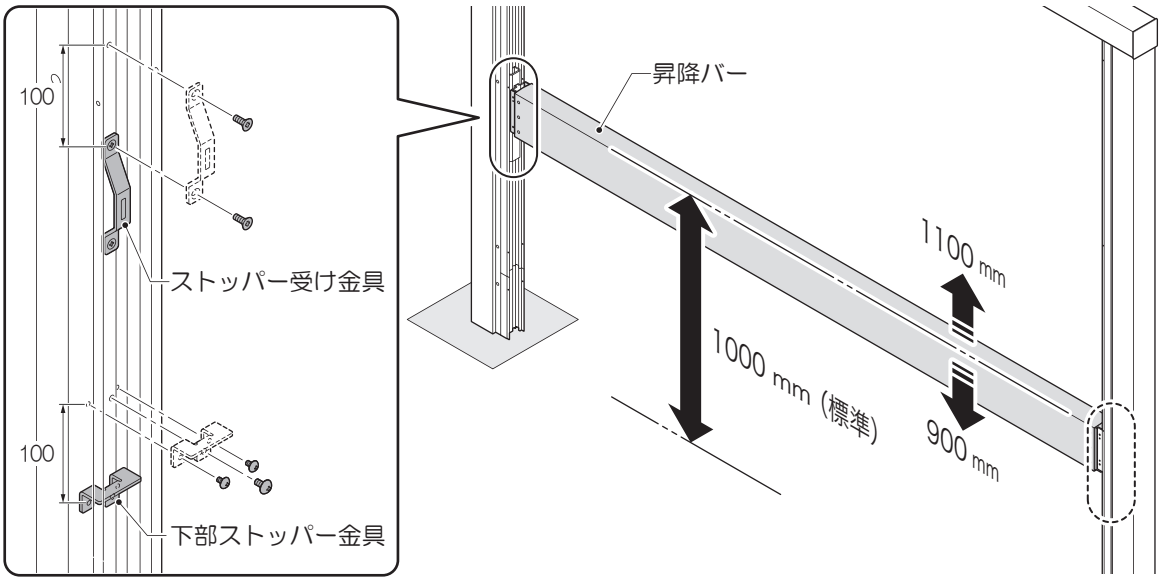
■昇降バー中央部の操作金具にフック棒を引っ掛け、昇降バーを下げてください。操作金具が下がることにより自動でロックが解除されます。
■昇降バーが下端の位置まで来たら両手で昇降バーを押し下げてください。カチッと音がすればロックがかかった状態となります。



注意　昇降バーは必ず中央部を操作してください。
昇降バーを上げるときは、勢いをつけて上へ放り投げないでください。
昇降バーの開閉に支障が出る可能性があります。

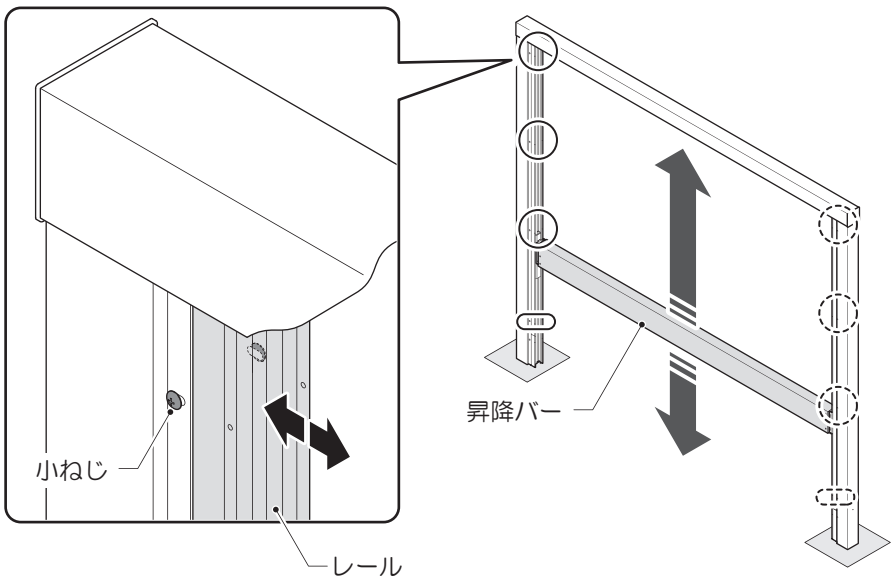
⑧昇降バーをお施主様のご要望に応じ、高さ調整をしてください。
ストッパー受け金具と下部ストッパー金具の取り付け位置を変えることにより昇降バーの高さを900 mm、1000 mm、1100 mm に変えることができます（標準は高さ1000 mm）。

※高さが決まりましたら、金具の取り付け位置にあらかじめ取り付けてあるねじをはずし、ストッパー受け金具と下部ストッパー金具を取り付けてください。
※作業中は昇降バーを上まで上げてロックしてください。



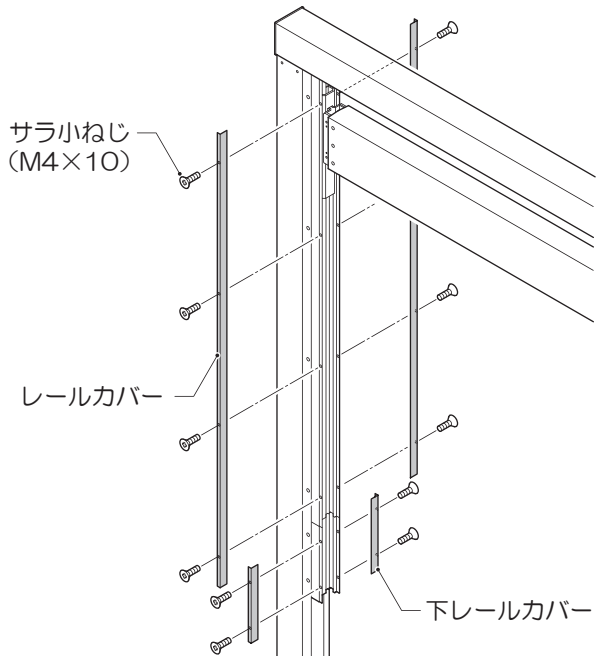
4 レール間ピッチの調整

①昇降バーを上下させながらレールを柱へ取り付けているトラス小ねじを緩め、レール間ピッチを調整しトラス小ねじを締め付けてください（調整代±3 mm）。

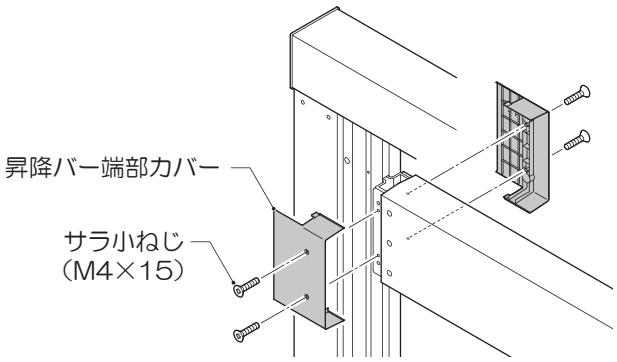


5 レールカバー、昇降バー端部カバーの取り付け

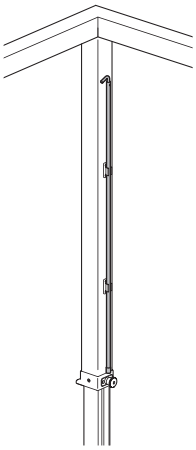
①レールにレールカバーを取り付けます。



②昇降バー端部カバーを取り付けます。



6 フック棒の固定方法（保管）

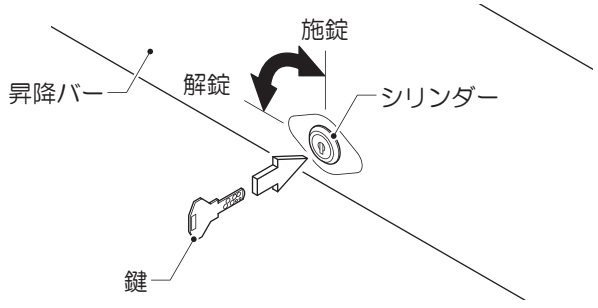


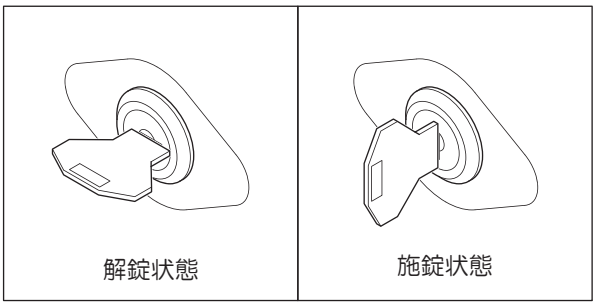
お客様のご要望に応じ、ロッドホルダーを同梱の両面テープまたは、サラドリルねじφ4×16で袖壁、クルボーノの柱、他のエクステリア商品の柱などに取り付け、フック棒を保管してください。

注意 クルボーノの柱にロッドホルダーを取り付ける場合は、同梱の両面テープで取り付けてください。**ねじは使用しないでください。**ねじなどで取り付けると昇降バーの動きに支障をきたす場合があります。

7 作業後の点検

取り付け作業をしたボルトやねじの締まり具合を確認してください。 → 本体や下部レールについているモルタルなどは完全に拭き取ってください。 → 昇降バーの開閉テストをして、軽快に動作するか確認してください。
軽快でない場合、「P13 4 レール間ピッチの調整」を確認し、調整を行ってください。 → シリンダー錠の動作を確認の上、キーをお客様にお渡しください。





第1版	2026年9月発行

三協立山株式会社 三協アルミ社 | 〒933-8610 富山県高岡市早川70
エクステリア事業部　TEL（0766）20-2261